

教学半也



令和6年8月2日
No. 7

初任者研修に
たずさわる全読者対象

課題を明確にし、自己課題の設定につなげる

初任者研修 授業力向上研修Ⅰ(5/14) 教師力向上研修Ⅰ(6/4)

5月14日に行われた「授業力向上研修Ⅰ」は、先輩先生の授業参観や研究会を通して実践的な指導力を養う初任者研修として、3地区6会場に分かれて実施されました。児童生徒の学びの姿、先輩先生の児童生徒への接し方や語りかけを肌で感じることができました。また、校長講話から教師として大切にしていきたいことに気付くことができました。

授業者の先生と生徒のよい関係性がうかがえました。子供がいきいきと発言したり活動を行ったりするためには、基本的な授業構想はもちろん、安心できる授業環境をつくることからだと、研究会を通して感じました。



校長先生のメッセージがこもったピアノ演奏とお話から、歳はとってしまうが、それを補うものについて考えました。若さは一つの武器なので大切にしながら、自分の強みとなるものを身に付けたいです。



振り返りの場面で、子供が自分の思いや考え方について、どのように変化したのかに着目して、自分の成長に気付くことができました。自身の授業にも生かしたいです。

6月4日に行われた「教師力向上研修Ⅰ」では、先生方同士で目指す教師像の共有や学習指導にかかわる意見交換を行いました。クラウドを活用しての共同編集機能による情報共有や助言を手掛かりに、互いの取り組みの成果や手応えについて意見交換をする中で、日々の授業実践に加え、校外研修での学びについても話題となり、自身の課題が少しずつ明確になる様子がありました。目指す教師像の具現に向け、まずは、授業に関わる自己課題の設定に向けたよいスタートが切れたようです。

自己課題は、自身の成長に合わせ繰り返し更新されますが、ここでは参加した初任者の、現段階における目指す授業についての構想をいくつか紹介します。

自己課題の設定について

目指す教師像の第一歩として、まずは、目指す授業についての自己課題を設定し常に更新していきましょう。



目指す教師像



授業の中で、子どもが自分と対話して考える時間を作り、「わかった・できた」と思える瞬間に出会えるような授業。

日頃から生徒の様子をとらえ、一般的な事象から数学的活動に結びつける導入の時間を位置付ける授業。

生徒の小さな困っている姿を見逃さず、適切な支援を行い「できなかった」で終わる生徒がいない授業。

学習問題・学習課題を子どもの言葉で設定し、学級が同じめあてに向かいながら、その子らしく学べる授業。

漠然とイメージしていた自己課題は、自身の授業を振り返ったり、校内外での研修を重ねたりする中で明確になっていきます。自己課題は一度設定して終わりではなく、新しくうまれた課題や思いを整理しながら更新されていくものです。設定に至るまでの過程やその時の思いを大切に、自己課題の設定、更新、そして解決に取り組んでいきましょう。



研修や実践での対話から自己課題の設定へ



山内先生

～ 長野県花田養護学校 山内欣也先生 へのインタビューから ～

初任者の山内先生は、今年度4月より肢体不自由特別支援学校の教師としてのスタートをきりました。これまで勤務経験のある、知的障害特別支援学校との違いや、保健体育の専門性の活かし方について迷いながら研修や実践を重ね、少しずつ自己課題が設定されていくまでの歩みを紹介します。

4月11日
スタート研修

山内先生は「目指す授業」についてグループで行った意見交換を通じ、自身が担当する生徒の実態から次のように思いを新たにしました。



子供の実態を把握した上で、もっている力を発揮できる学習環境を整えたい。子どもの「やりたい、楽しそう、気になる」という気持ちや「表出」を敏感にキャッチして認めていけるような授業、かわり方ができたらと思う。【研修講座の振り返りより】



担当する生徒の姿が思い浮かび、「生徒と一緒に授業をつくろう」と意識し始めました。

5月14日
授業力向上研修Ⅰ

山内先生は、諏訪市立上諏訪中学校 久保村美公先生の英語の授業参観をし、先輩の授業から次のようなことを学びました



題材選び（修学旅行）の重要性を改めて感じました。生徒の関心から授業を構想したことで、英語が苦手な生徒も対話的に課題に向き合っていました。教師の働きかけ一つで、生徒の学び方が変わるということを知ることができました。【授業力向上研修Ⅰのまとめより】



先輩の授業を参観することで、「題材選び」という新たな視点に気が付きました。また、保健体育という自身の専門性をどのように活かすのかについて考える機会になりました。

6月4日
教師力向上研修Ⅰ

山内先生は日々の実践の積み重ねや様々な研修を経て、自己課題の設定に向け次のようなキーワードを描くことができてきました。



自己課題につながるキーワード

- ・授業づくり、関係づくりのために正確な実態把握をする
- ・特別支援学校のTTの良さをいかし、教師間で情報共有を大切にする

【教師力向上研修Ⅰの演習シートより】



グループ協議の中で「表出された子どもの思いと自分のとらえが一致しているのだろうか」という問いが生まれ、正しい実態把握が課題として明確になってきました。

6月25日
教師力向上研修Ⅱ

山内先生は、5年経験者や他の初任者ともに授業実践を基に語り合う研修を通じ、次のように自己課題設定への視点を更新しました。



同じ特別支援に関わる先生方と話すことで、「表出」のとらえについて整理することができました。表出を見つけること、共有することを意識して支援したいです。【教師力向上研修Ⅱのまとめより】



生徒の表出を、教師の関りにより一緒に「意味づけしていく」という視点を得ることができました。これは、自立活動の指導内容になるので意識していきたいです。

山内先生は自己課題設定までもう一步のところまでたどり着きました。各校初任者の自己課題は、どのような経緯で設定され、今後どのように更新されていくのでしょうか。長期的な展望もイメージしながら、初任者の主体的な歩みに寄り添ったり、新たな気づきを促す問いかけをしたりしていただきたいと思います。



研修や実践を重ね、整理・更新

外国人児童生徒等にかかわる皆さん

みんなで変わろう つながろう

～ 6/6第1回外国人児童生徒等指導研修会 ～



外国人児童生徒等教育を担う教員の資質・能力モデル 通称「豆の木モデル」では、学校づくりと地域づくりを「つなぐ力」、多文化共生社会の実現と教師としての成長を「変える／変わる力」としています。本稿では、本研修における「つなぐ力」にかかわる受入れ事例紹介や高校進学に関する情報提供、「変わる力」にかかわる情報交換の様子について紹介します。

事例の紹介

すべては子どもたちのために

- ・国籍は違えど、大切な生徒
- ・まったく言葉の通じない国で過ごすことを想像できるか
- ・あらゆる教育資源を生かし子どもたちを支えていこう

下平教頭先生のスライドの一部

飯田市立旭ヶ丘中学校の下平浩之教頭先生と、富士見町こども課の樋口春江様から、富士見町立富士見中学校（下平先生の前任校）での受入れ事例について紹介していただきました。両親により日本に呼び寄せられたAさんの「日本の高校・大学に進学できる学力をつけるため、中学校で勉強をしたい」という願いの実現に向け、教育委員会、社会福祉協議会、学校が連携し、支えていった事例でした。

外国人生徒のために、学校、教育委員会、地域が連携して熱心にサポートされた富士見町のような事例は、これからますます増えていく外国人児童生徒の受け入れの、まさにお手本だと感じました。自分の学校でも、外国人児童生徒一人一人を周りと連携して支えていきたいです。（外国籍児童支援担当の方の感想より）



高校教育課より生活支援事業の説明

高校教育課の水津潤主任指導主事より、高校入試における合理的配慮の申請フローや、長野県独自の日本語が不自由な生徒のための高校生活支援事業等について説明していただきました。



外国人児童生徒のための就学ガイドブック



小学校高学年から、高校進学について話をしていく必要があると感じました。日本語の習得が1番ということでしたが、そこが1番の課題であるとも思いました。日本語教室の先生のみならず、学校全体で考えていく必要があると改めて感じました。（学級担任の方の感想より）

グループでの共有

日常的な学習や支援の様子、困っていることなどについて、グループで共有しました。



グループ共有の様子

「とにかくまずは、楽しく学校に来て学びを積み重ねることが大切」という言葉に、そういう日常になるようにサポートしていきたいと感じました。今後の取り組みにかかわるアイデアや発想の糸口がつかめました。（日本語教室担当の方の感想より）



受入れ準備が不十分なまま、日本語指導を必要とする生徒が入学・転入している状況ですが、本日の研修や情報交換の中で参考になることが多かったので、支援の方法として学校で取り入れていきたいと思えます。（教頭先生の感想より）



11月5日（火）に、第2回外国人児童生徒等指導研修会を計画しています。日本語教室の授業参観（「捉える力」・「育む力」）、卒業生の声を聞く会の事例紹介（「つなぐ力」・「変える力」）、情報交換会（「変わる力」）の場を設ける予定です。今回つながった力をさらに広げたり、変わり始めた学校の様子を紹介し合ったりする機会となります。ぜひご参加ください。



本号では、「教育課程編成・学習指導の基本」の中の、「各教科の特質に応じた『見方・考え方』」について抜粋して掲載します。「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」について再確認し、2学期の授業にいかしていきましょう。



[こちらよりダウンロードできます](#)



参考 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」(「深い学び」の鍵となるもの)

※ 各教科等の学習指導要領解説・中央教育審議会「答申」より県教育委員会が作成。

※ 「見方・考え方」は、固定的なものとして捉えず、学習内容等に応じて柔軟に考えることが重要です。

言葉による見方・考え方	対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に 着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること	
社会的な見方・考え方	社会的事象の見方・考え方 (小学校)	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに 着目して(視点)、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、 地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること(方法)
	社会的事象の地理 的な見方・考え方 (地理的分野)	社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や 地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付 けること
	社会的事象の歴史 的な見方・考え方 (歴史的分野)	社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確に し、事象同士を因果関係などで関連付けること
	現代社会の見方・ 考え方 (公民的分野)	社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など) に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・ 判断に資する概念や理論などと関連付けること
数学的な見方・考え方 (算数)	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋 道を立てて考え、統合的・発展的に考えること	
数学的な見方・考え方 (数学)	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合 的・発展的に考えること	
理科の見方・考え方 (小学校)	自然の事物・現象を下のような視点で捉え、問題解決の過程の中で用い る、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えること *「エネルギー」を柱とする領域では、主として量的・関係的な視点 *「粒子」を柱とする領域では、主として質的・実体的な視点 *「生命」を柱とする領域では、主として多様性・共通性の視点 *「地球」を柱とする領域では、主として時間的・空間的な視点	
理科の見方・考え方 (中学校)	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの 科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探 究する方法を用いて考えること	
身近な生活に関わる見 方・考え方	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向 けて思いや願いを実現しようとする事	
音楽的な見方・考え方 (小学校)	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素と その働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連 付けること	
音楽的な見方・考え方 (中学校)	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素と その働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文 化などと関連付けること	

造形的な見方・考え方 (図画工作)	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと
造形的な見方・考え方 (美術)	よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと
体育の見方・考え方	運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること
保健の見方・考え方	個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること
生活の営みに係る見方・考え方 (家庭)	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること
技術の見方・考え方	生活や社会における事象を、技術との関わり方の視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わり方に着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること
探究的な見方・考え方 (総合的な学習の時間)	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること
集団や社会の形成者としての見方・考え方 (特別活動)	各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること
<p>道徳科における見方・考え方は示されていませんが、道徳科の学習を進めるに当たっては、小学校では、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めること（中学校では、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深めること）が求められています。</p>	

[参考]

文部科学省 小学校学習指導要領解説

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm

文部科学省 中学校学習指導要領解説

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm





「みんなで学ぼう」（情報提供）

『NITS（独立行政法人教職員支援機構）のオンライン講座』



独立行政法人教職員支援機構

NITS 校内研修シリーズ

検索

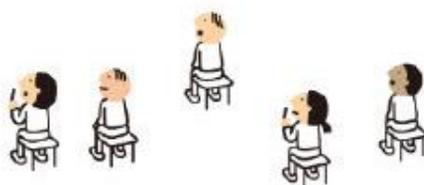
全国の学校教育関係職員に豊富で質の高い研修機会を提供するため、いつでもどこでも研修が可能となるよう、「校内研修シリーズ」を始め、多様な研修教材を提供しています。

これまでに、「校内研修シリーズ」では156本、「実践力向上シリーズ」では15本の動画を制作しています。

令和4年度には、教職未経験者を主な対象とした「基礎的研修シリーズ」を制作・配信し、具体的な事例等を紹介しながら、教壇に立つ上で必要となる基礎的な内容のコンテンツをまとめています。

基礎的研修シリーズ

No1	小学校教師の仕事体験しよう！① ～新人教師の一日に密着！～	No18	指導要録・通知表の書き方
No2	小学校教師の仕事体験しよう！② ～教師と子供たちの一年間～	No19	保護者と信頼関係を築く① ～保護者会・個人面談～
No3	まずは一社会人として ～挨拶、言葉遣い、報・連・相～	No20	保護者と信頼関係を築く② ～連絡・相談～
No4	スクール・コンプライアンス	No21	保護者と信頼関係を築く③ ～保護者からの訴えへの対応～
No5	学校の組織、チーム学校	No22	いじめ問題
No6	学級開き	No23	不登校
No7	学級目標・学級生活づくり	No24	ICT活用（GIGAスクール構想）
No8	安心して学べる環境づくり ～教室環境～	No25	特別支援教育
No9	学級生活を楽しく豊かに ～日直・係の仕事～	No26	特別の教科 道徳
No10	望ましい食習慣を育む ～給食指導～	No27	学び続ける教師をめざして ～学びを深める校内研修～
No11	一日の始めと終わりを大切に ～朝の会・帰りの会～	No28	新たな教師の学び
No12	教材研究の方法	No29	生まれ変わっても教師になりたい！ ～現役教師座談会～
No13	単元指導計画の立て方	No30	会社員から教師になって ～若手教師インタビュー～
No14	学習指導案の書き方		
No15	子供の心をつかむ ～授業の導入～		
No16	分かる授業をつくる ～効果的な発問・板書～		
No17	学力向上の取組		



校内研修シリーズ

<新着動画（令和5年度制作分）>

No131	学校現場における児童虐待対応	No144	「先生が忙しすぎる」をあきらめないⅡ 働き方を見つめなおす Why What How
No132	学校における労働安全衛生管理の観点からの 適切な職場環境づくり	No145	言語活動
No133	消費者教育	No146	養護教諭の職務
No134	法務相談体制の活用について	No147	道徳科に求められる評価
No135	特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育 ～通常の学級における指導の在り方：理論と実践～	No148	教育現場におけるコーチングコミュニケーション
No136	地域とともにある学校づくり	No149	キャリア教育の実践
No137	地域と共に創る教育	No150	こども基本法について
No138	地域の教育活性化とスクールリーダー ～ウェルビーイング循環編～	No151	栄養教諭の職務
No139	希死念慮のある児童生徒への適切な対応について①	No152	部活動の地域連携・地域移行について
No140	希死念慮のある児童生徒への適切な対応について②	No153	学習指導要領に基づく性に関する指導
No141	不登校児童生徒の支援と教育相談	No154	令和版 ネットいじめの現状と対策
No142	体力向上マネジメント	No155	時間予算ワークショップ
No143	災害安全	No156	大まかな合意形成ワークショップ

校内研修で活用する例

研修の冒頭で視聴し、それをふまえた演習を行う流れが可能です。

20分



40分



「オンライン講座、使っています」利用者の声より

初任研で使った。
自分自身に合う
テーマや内容を
選びやすい。

専門的な研修を
手軽にできるから
いいのでは？

具体的な対応例が
わかりやすかった。

コンパクトに
まとめられているのがよい。
そのまま校内研修で
活用できる。

日々の授業実践に
役立てることができた。

独立行政法人教職員支援機構 <http://www.nits.go.jp>

<つくば本部> 〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地